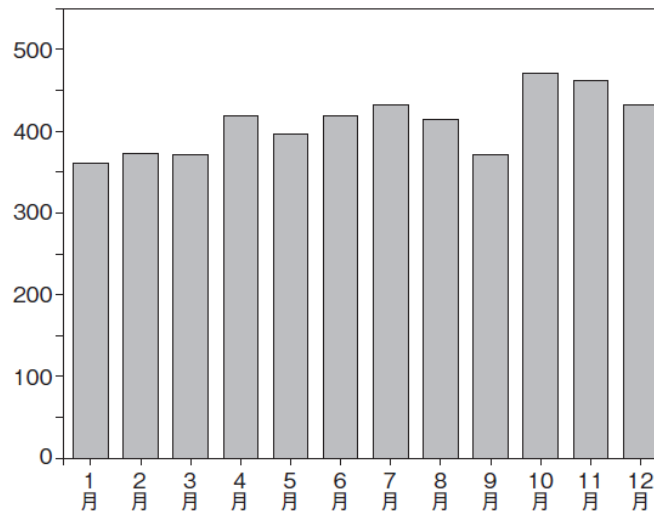


公益財団法人日本医療機能評価機構

2016年に報告された薬局におけるヒヤリ・ハット事例4,939件について、各項目の集計を行った結果は以下の通りである。割合については小数点第2位を四捨五入したものであり、合計が100.0にならないことがある。内容を選択して表示する。

1. 発生月

発生月	件数
1月	362
2月	374
3月	372
4月	420
5月	398
6月	420
7月	434
8月	416
9月	373
10月	473
11月	463
12月	434
合計	4,939



1) 調剤に関する項目

発生場面	事例の内容	件数	発生場面	事例の内容	件数
調剤	調剤忘れ	123	管理	充填間違い	14
	処方せん監査間違い	190		異物混入	3
	秤量間違い	22		期限切れ	3
	数量間違い	1,019		その他(管理)	10
	分包間違い	128	交付	患者間違い	7
	規格・剤形間違い	649		説明間違い	12
	薬剤取換え	740		交付忘れ	44
	説明文書の取換え	4		その他(交付)	31
	分包紙の情報間違い	35	合計		3,561
	薬袋の記載間違い	196			
	その他(調剤)	331			

10. 発生要因

項目		件数	
当事者の行動に関わる要因	確認を怠った	3,796	
	報告が遅れた(怠った)	20	
	記録などに不備があった	121	
	連携ができていなかった	186	
	患者への説明が不十分であった(怠った)	84	
	判断を誤った	387	
背景・システム・環境要因	ヒューマンファクター	知識が不足していた	494
		技術・手技が未熟だった	339
		勤務状況が繁忙だった	1,055
		通常とは異なる身体的条件下にあった	37
		通常とは異なる心理的条件下にあった	187
		その他(ヒューマンファクター)	226
	環境・設備機器	コンピュータシステム	200
		医薬品	580
		施設・設備	80
		諸物品	6
		患者側	193
		その他(環境・設備機器)	102
	その他	教育・訓練	177
		仕組み	149
		ルールの不備	320
		その他	234
	合 計		8,973

※「発生要因」は複数回答が可能である。

<http://www.tokyo-eiken.go.jp/files/top/d7d650744dc91e7678721434fd1fad45.pdf>

くらしの健康 平成29年12月 第40号 東京都健康安全研究センター

知って備える。災害時の食中毒予防

昨年4月、熊本県を中心に連続した大きな地震(熊本地震)が発生しました。この震災ではピーク時の避難者数が18万人を超え、被災者は避難所等での生活を余儀なくされました。

災害時には、水道、電気、ガス(ライフライン)が使えなくなることや、衛生用品の不足などが生じ、普段の生活のような十分な衛生状態の確保が難しくなります。実際、過去の災害では、避難所で食中毒が発生しています。東京では、首都直下地震等により、ピーク時の避難者数が300万人を超えると被害想定が示されています※1。このような災害に備えるために、今回は、災害時の食中毒予防について、当センターが実施した調査結果※2をもとに、対策のポイントを解説します。

避難所生活等における食中毒等防止対策に関する調査(平成28年度実施)

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/hyouka/files/28/hyouka3/24_report.pdf

～避難生活で食中毒を予防するための家庭内備蓄のポイント～

対策のポイント『飲み水は最低9リットル×人数分の備蓄を!』

対策のポイント『特に衛生用品の備蓄は役立ちます!』

- ・食中毒対策等のため、以下の衛生用品が役に立ったとの声があります。

消毒用アルコール

手指や調理器具の消毒に役立ちます。

使い捨て手袋・ビニール袋	調理の際、素手で食品を触らずに済みます。
ウェットティッシュ	水が使えない場合に、手指の汚れを落とすのに役立ちます。
ラップ・アルミホイル	食器に巻いて使うことで、食器を洗わずに済みます。
カセットコンロ・ガスボンベ	ガスの供給が停止した場合などでも、お湯を沸かしたり、加熱調理ができます。

対策のポイント『食中毒予防の第一歩は手洗いから！』

対策のポイント『作るときにも気を付けて！』

対策のポイント『変だな？と思ったら、もったいなくても思い切って捨てる！』